

未来を、ひろげる。



広島県内の主要産業の動向(2024年8月)

2024年8月

株式会社ひろぎんホールディングス
経済産業調査部

目次

サマリー	2
1. 自動車	3
2. 自動車部品	4
3. 造船	5
4. 工作機械	6
5. 産業機械	7
6. 電子部品・デバイス	8
7. 鉄鋼	9
8. 大型小売	10
9. 自動車販売	11
10. ホテル	12
11. 建築・土木	13
12. 住宅・マンション	14
13. 陸運	15
14. 海運	16

- ◆ 本資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。
- ◆ 本資料は、信頼できるとされる情報に基づいて作成されていますが、その正確性を保証するものではありません。また、本資料に記載された内容等は作成時点のものであり、今後予告なく修正、変更されることがあります。資料のご利用に関しては、お客さまご自身の責任において判断なされますよう、お願い申し上げます。
- ◆ 本資料に関連して生じた一切の損害については、責任を負いません。その他、専門的知識に係る問題については、必ず弁護士、税理士、公認会計士等の専門家にご相談のうえ、ご確認ください。
- ◆ 本資料の一部または全部を、当社の事前の了承なく複製または転送等を行うことを禁じます。
- ◆ 本件に関するご照会は、ひろぎんホールディングス経済産業調査部(082-247-4958)までお願いします。

製造業の見通し

- 自動車は、認証不正問題の影響は軽微にとどまり、主力の北米を中心に販売は回復に向かう見通し
- 造船は好業績が続く、電子部品・デバイスは半導体需要の拡大に向け増加基調

業種	最近 (24CY上)	今後 (24CYF)	当面の見通し
1 自動車			北米を中心に販売は回復に向かう
2 自動車部品			生産・業績は緩やかに上向く
3 造船			高船価船の竣工等から好業績が続く
4 工作機械			外需を中心に弱めの動きが続く
5 産業機械			はん用機械を中心に回復に向かう
6 電子部品・デバイス			需要拡大を受け増加が続く
7 鉄鋼			需要は弱めながら業績は底堅く推移

非製造業の見通し

- 大型小売は賃上げ等に伴う消費マインドの改善が期待され、飲食料品を中心に底堅く推移
- ホテルはインバウンド中心に好調が続く、建設・土木も底堅く推移
- 住宅・マンションは販売価格上昇を受け需要は低調、陸運も業績改善には時間を要する

業種	最近 (24CY上)	今後 (24CYF)	当面の見通し
8 大型小売			消費者マインドの改善に期待
9 自動車販売			認証不正問題の影響が当面は残る可能性
10 ホテル			インバウンドを中心に宿泊の好調が続く
11 建築・土木			民間工事・公共工事とも底堅く推移
12 住宅・マンション			価格上昇を受け低調に推移
13 陸運			業績改善には時間を要する
14 海運			輸送距離の伸長等から高水準続く

天気図 好調 不調

1. 自動車 ～北米を中心に販売は回復に向かう～

最近の動き



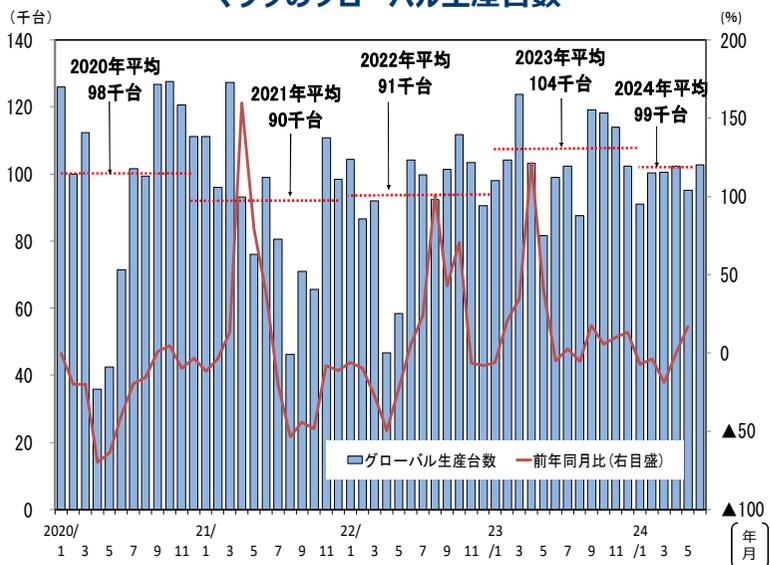
- マツダのグローバル販売台数(2024年1～6月)は、103千台/月(前年同期比▲0.5%)と、小幅ながら前年を下回った。主力の北米は堅調に推移したものの、国内・中国が低迷した。
- グローバル生産台数(同)は、99千台/月(前年同期比▲2.9%)と前年を下回った。北米向けのSUV「CX-50」「CX-90」は好調ながら、主力の「CX-5」や「CX-60」が落ち込んだ。
- なお、2024年3月期の業績は、売上高・営業利益とも過去最高となった。高付加価値車種(大型SUV「CX-90」など)の導入拡大や原価改善等への取り組みが奏功したことに加え、記録的な円安も追い風となった。

当面の見通し



- **グローバル販売**は、北米向け新型SUV「CX-70」が2024年春より投入されたことに加え、「CX-50」のHVモデルや新車種「CX-80」が秋頃投入される予定であり、**北米を中心に回復に向かう**とみられる。
- ただし、中国やタイをはじめとするASEANでは、中国系自動車メーカーの攻勢を受け低迷する公算が大きい。
- **業績**は、販売の増加に加え付加価値の高いSUVの投入拡大により、**増収増益基調**が続く見通し。
- なお、6月に発覚した認証不正問題の生産・出荷停止対象は2車種(マツダ2、ロードスターRF)に限られ、7月には再開されたことから影響は軽微とみられる。

マツダのグローバル生産台数



マツダのグローバル生産・販売台数 (月平均)

	グローバル生産				グローバル販売	
	前年同期比	うち国内	前年同期比	前年同期比	前年同期比	
20年上期	81 ▲34.7%	49	▲44.4%	93 ▲25.1%		
20年下期	114 ▲7.2%	76	▲6.3%	114 ▲9.0%		
21年上期	100 23.5%	70	43.3%	118 27.5%		
21年下期	79 ▲31.3%	53	▲30.3%	96 ▲15.8%		
22年上期	82 ▲18.3%	55	▲20.7%	92 ▲22.1%		
22年下期	100 26.9%	67	27.1%	94 ▲2.6%		
23年上期	102 23.9%	69	25.2%	104 12.5%		
23年下期	107 7.4%	71	5.1%	103 10.5%		
24年上期	99 ▲2.9%	61	▲11.4%	103 ▲0.5%		

(千台、%)

(注) 24年上期は1～6月
(資料) マツダ(株)資料よりひろぎんHD経済産業調査部作成

マツダの業績
(24年3月期実績・25年3月期見通し)

	24年3月期		25年3月期 通期見通し	
	前期比	前期比	前期比	前期比
売上高	48,277	10,009	53,500	5,223
営業利益	2,505	1,085	2,700	195
当期純利益	2,077	649	1,500	▲576
グローバル販売台数	1,241	131	1,400	159
日本	160	▲5	180	20
北米	514	108	600	86
欧州	180	20	183	3
中国	97	12	98	1
その他	290	▲4	339	49
為替レート	対USD	145	9	143 ▲2
	対EUR	157	16	155 ▲2

(億円、千台、円)

(資料) マツダ(株)資料よりひろぎんHD経済産業調査部作成

2. 自動車部品 ～生産・業績は緩やかに上向く～

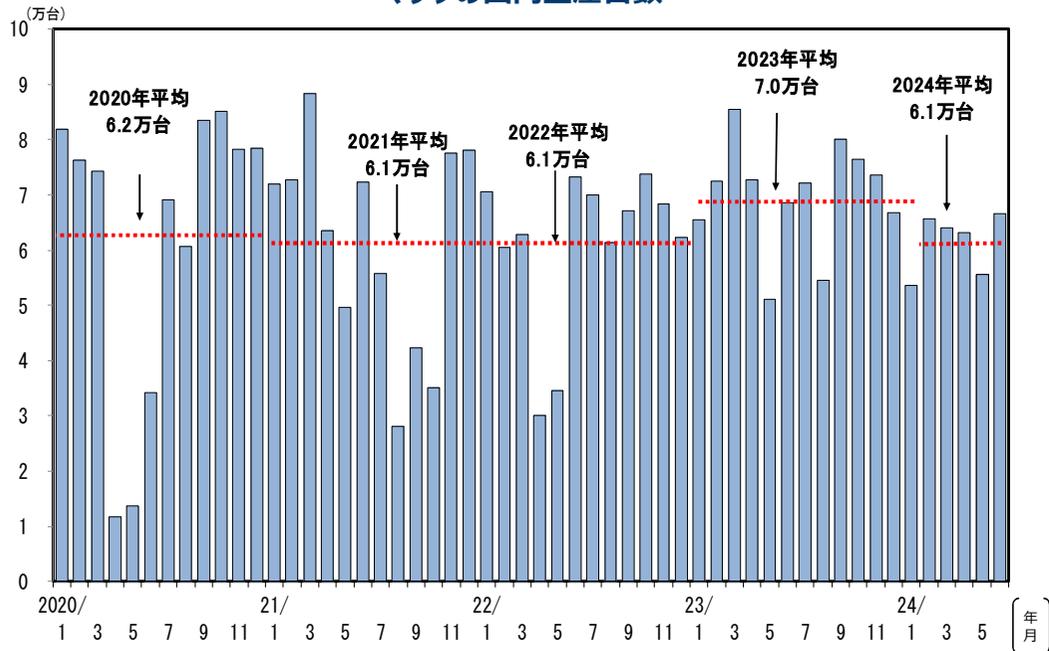
最近の動き

- 国内の自動車生産は、一部自動車メーカーの認証不正問題もあって総じて低調に推移しており、マツダの国内生産台数も、2024年1～6月は6.1万台/月(前年比▲11.4%)と、大幅な前年割れとなった。
- ちなみに、広島県の自動車部門の鉱工業生産指数(2024年1～5月)は、82.4(前年同期比▲13.4%)と前年を下回った。
- 業績は、生産の低調に加え、エネルギー価格の高止まりや人件費の上昇等によるコスト負担の増加から、総じて弱含んだ。

当面の見通し

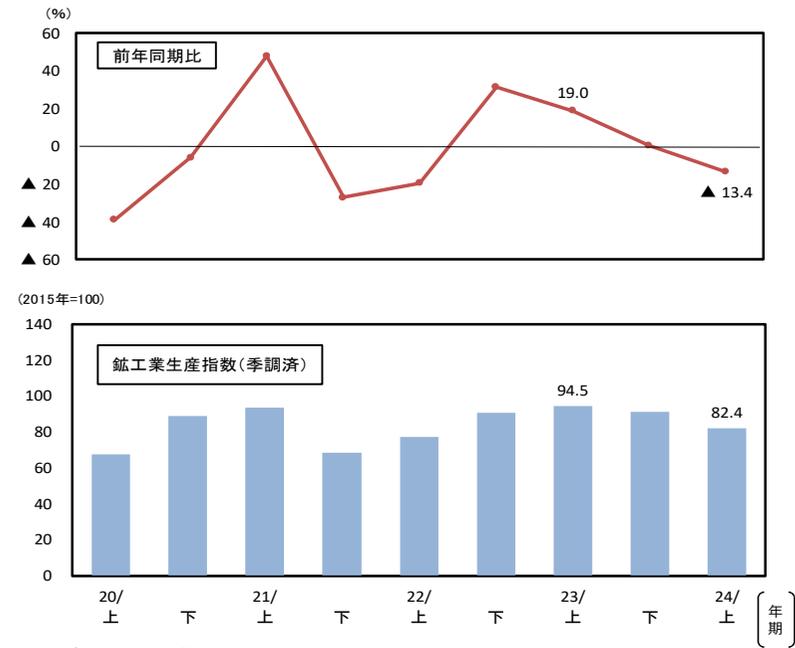
- **受注および生産**は、マツダを含む自動車メーカーの国内生産の回復から、**緩やかに上向く**見通し。
- **業績**は、エネルギー・人件費等のコスト増が引き続き下押し材料となるものの、生産の回復を受けて**改善に向かう**とみられる。
- なお、認証不正問題を受けた出荷停止によるサプライヤーへの影響は軽微とみられる。

マツダの国内生産台数



(注) 24年の平均は1～6月の実績
(資料) マツダ(株)資料よりひろぎんHD経済産業調査部作成

自動車部門の鉱工業生産指数(広島県)



(注) 24年上期は1～5月
(資料) 広島県資料よりひろぎんHD経済産業調査部作成

3. 造船 ～高船価船の竣工等から好業績が続く～

最近の動き



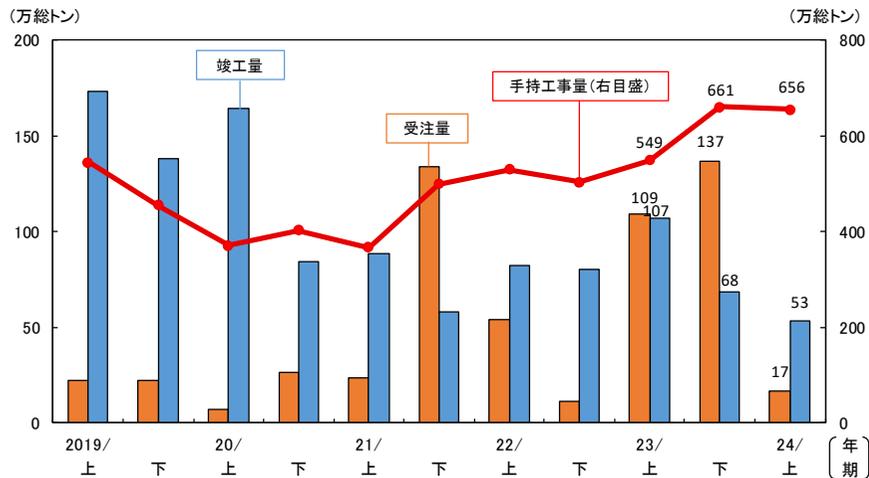
- 県内造船所の受注量(2024年1～4月)は17万総トン(前年同期比▲84.3%)と、大型コンテナ船の受注が好調であった前年から大きく減少した。
- ただし、手持工事量(2024年4月：656万総トン)は安定操業の目安とされる2年分を大きく上回る3年超に達しており、2028年の新造商談を進める動きもみられている。
- 業績は、コロナ禍以降に受注した高船価船の竣工や為替の円安基調を受けて改善が進んだ。ただし、日本円での受注契約が中心の一部の中小造船所では、鋼材価格や舶用機器、労務費の上昇が収益を圧迫した。

当面の見通し



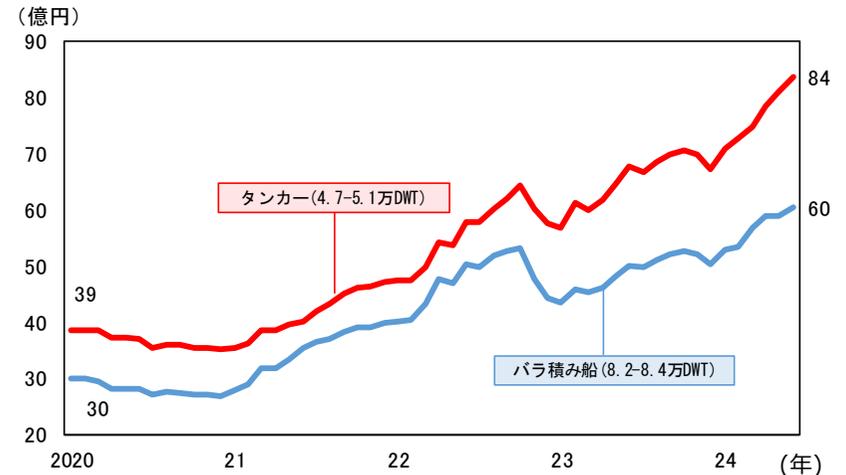
- 引き合いは、2010年前後の大量竣工船のリプレース需要を中心に活発化している。特に、中国・韓国の造船所が大型コンテナ船・LNG運搬船などの高付加価値船への転換を進める中で、地元造船業が得意とするバルカーの引き合いが増加している。
- ただし、高水準の手持工事量と深刻な人手不足の中で、鋼材価格や為替の変動リスク等を踏まえた案件の選別姿勢を続けており、**受注は低水準横這い**にとどまる公算が大きい。
- 業績は、竣工船価の上昇と為替の円安水準を背景に**好業績が続く**とみられる。

造船業の受注・竣工・手持工事量（広島県）



(注1) 24年上期は1～4月 (注2) 手持工事量は各期末(24年上期は4月末)
 (資料) 中国運輸局資料よりひろぎんHD経済産業調査部作成

新造船価（受注船価）



(注) 船価(円ベース) = 船価(ドルベース) × ドル円レート(月末値)、直近は24年6月
 (資料) Clarksons Research、日本銀行よりひろぎんHD経済産業調査部作成

4. 工作機械 ～外需を中心に弱めの動きが続く～

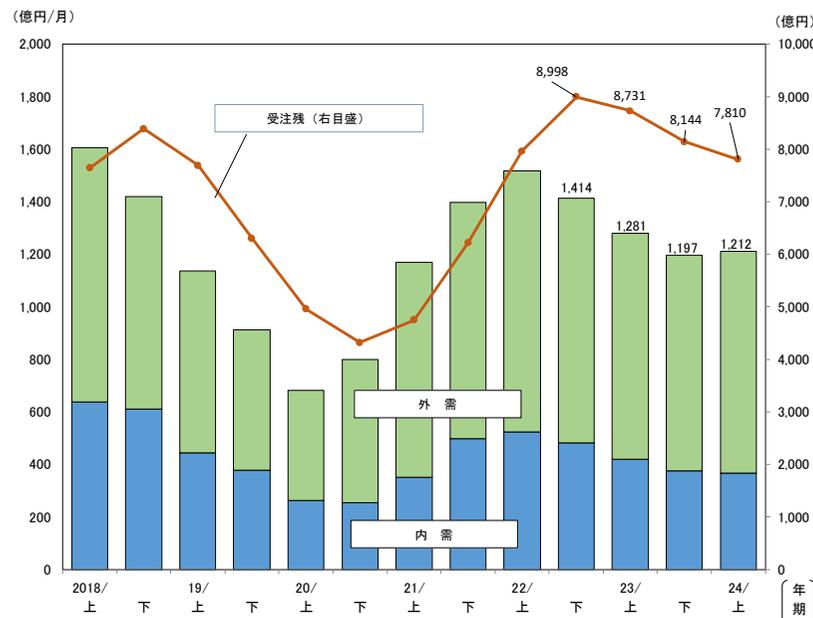
最近の動き

- 需要は、内需が自動車向けを中心に低調に推移したほか、外需も中国経済低迷の中で横這いにとどまった。因みに、2024年1～5月の全国の工作機械メーカーの受注額は1,212億円/月(前年同期比▲5.3%)と前年を下回った。
- 生産も減少基調が続き、2024年5月の国内生産額は658億円(前年同期比▲18.5%)と、大幅な前年割れとなった。
- 業績は、生産の減少等により多くの企業が減収減益。人手不足に伴い納期が長期化する一方で、資材価格の上昇により利益率が低下する例もみられた。

当面の見通し

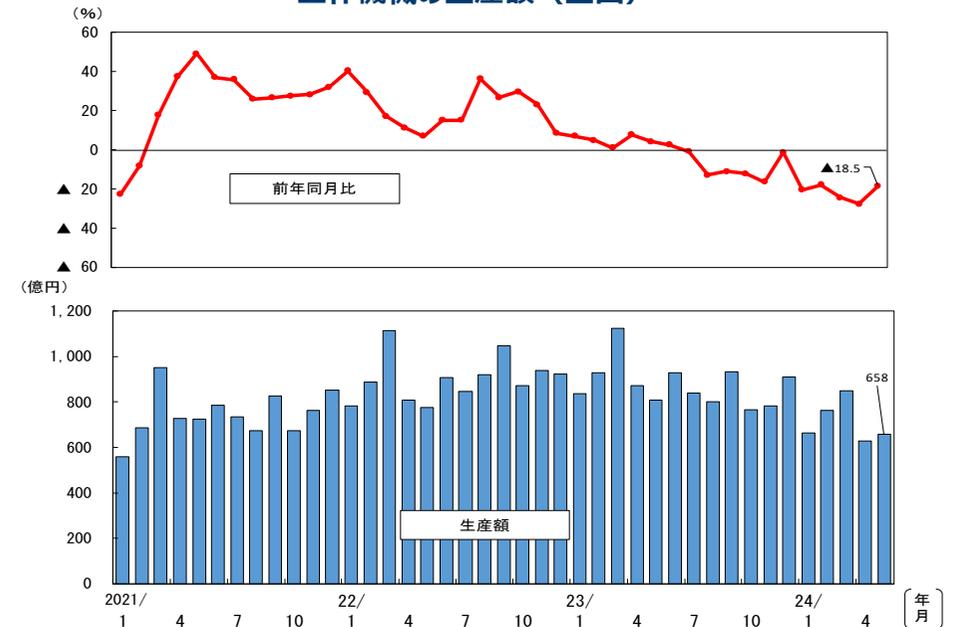
- **需要**は、内需は人手不足を背景とした自動化・省力化ニーズを受けて底堅いが、外需は中国経済低迷の長期化等から低調に推移するとみられ、全体でも**弱めの動きが続く**公算が大きい。
- **生産**は、需要の低調を受けて**低い水準で推移し、業績は減益基調**が続く見通し。

工作機械の受注額（月平均）・受注残（全国）



(注1) 24年上期は1～5月 (注2) 受注残は各期末時点、24年上期は5月末時点
 (資料) (一社) 日本工作機械工業会資料よりひろぎんHD経済産業調査部作成

工作機械の生産額（全国）



(資料) 経済産業省資料よりひろぎんHD経済産業調査部作成

5. 産業機械 ～はん用機械を中心に回復に向かう～

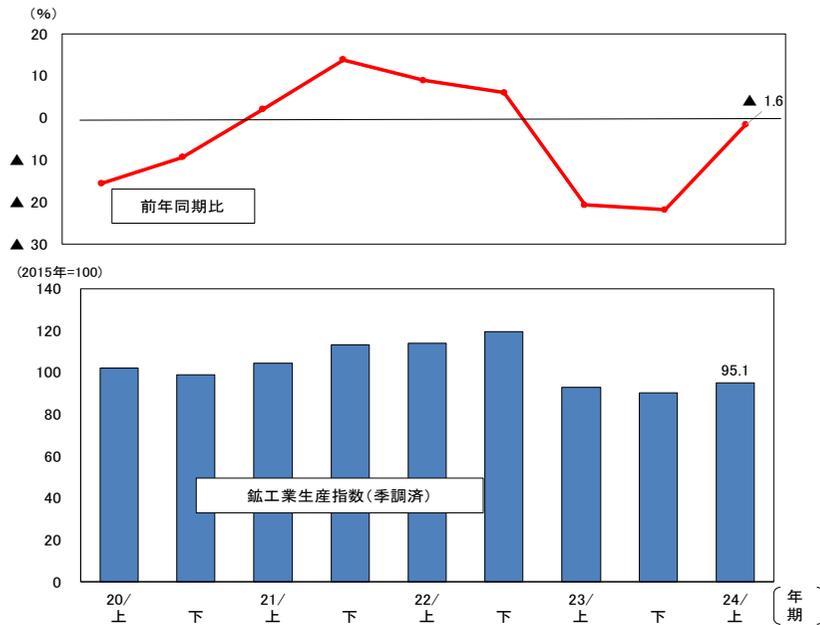
最近の動き

- 需要ならびに生産は、プラント用機械等を中心にはん用機械が好調に推移したものの、掘削機・クレーンなど建設機械を中心に生産用機械の低調が続く、全体では弱含んだ。
- ちなみに、広島県の一般機械の鉱工業生産指数(2024年1～5月)は95.1(前年同期比▲1.6%)と引き続き前年割れとなった。
- 業績は、生産の低迷から総じて弱含んだものの、一段の円安進行の中で増収増益となった企業もみられた。

当面の見通し

- 需要ならびに生産は、生産用機械は、建設機械の弱めの動きが続くものの、世界的な半導体需要の拡大を受け製造装置が増加。はん用機械も引き続き堅調に推移するとみられることから、全体では**回復に向かう**見通し。
- 業績は、原材料やエネルギーコストの高止まりが下押し材料となるものの、**生産の持ち直しを受けて改善していく**見通し。

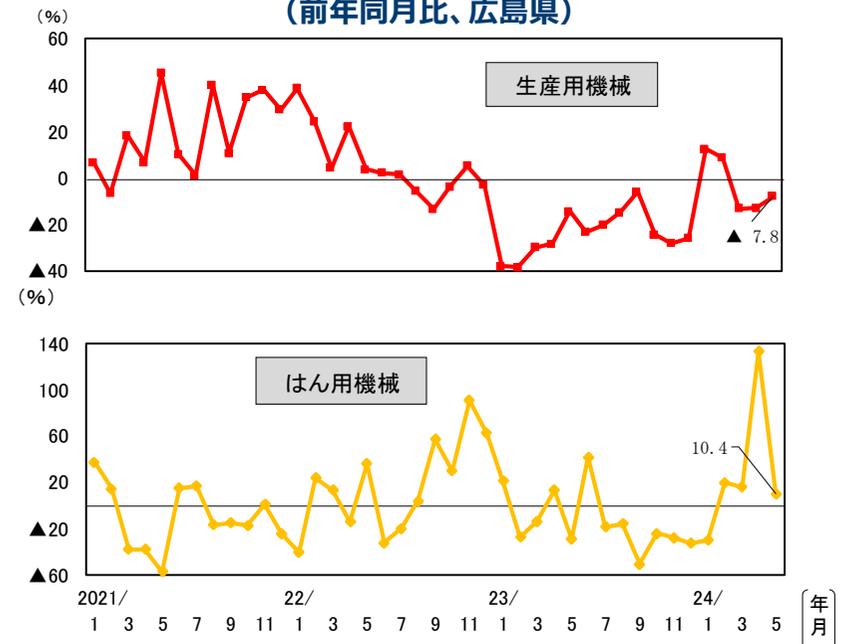
一般機械の鉱工業生産指数（広島県）



(注) 24年上期は1～5月

(資料) 広島県資料よりひろぎんHD経済産業調査部作成

生産用機械・はん用機械の鉱工業生産指数
(前年同月比、広島県)



(資料) 広島県資料よりひろぎんHD経済産業調査部作成

6. 電子部品・デバイス ～需要拡大を受け増加が続く～

最近の動き



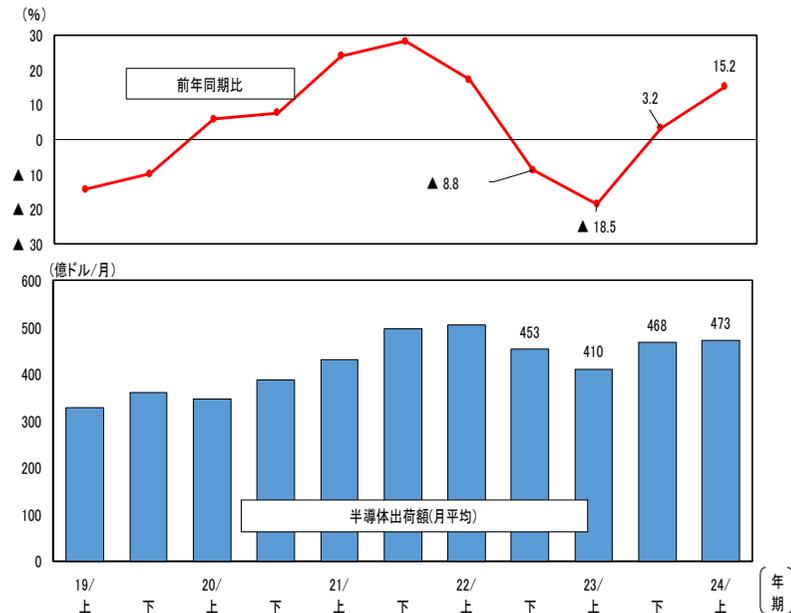
- 需要は、メモリ半導体などの世界的な在庫調整が一巡し、AI向けなどの先端製品への需要も拡大したことから上向いた。
- ちなみに、2024年1～5月の世界の半導体出荷額は、単価の上昇もあり、前年同期比+15.2%と大幅にプラスに転じた。
- 生産は、メモリ半導体・パワー半導体などでの生産体制増強を受けて増加しており、2024年1～5月の広島県の電子部品・デバイス工業の鉱工業生産指数は214.0(前年同期比+27.8%)と大幅に上昇した。

当面の見通し



- 需要は、AI・データセンター向けなど半導体需要の拡大を受け、**増加が続く**とみられる。
- 生産も、需要の拡大に加えて、大手事業所の増産により、**高水準が続く見通し**。

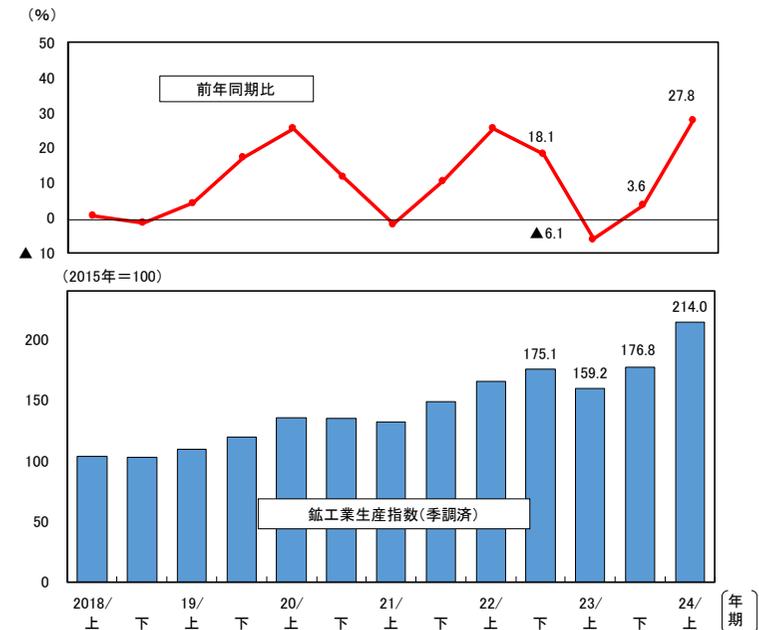
世界の半導体出荷額



(注) 24年上期は1～5月

(資料) World Semiconductor Trade Statistics資料より
ひろぎんHD経済産業調査部作成

電子部品・デバイス工業の鉱工業生産指数 (広島県)



(注) 24年上期は1～5月

(資料) 広島県資料よりひろぎんHD経済産業調査部作成

7. 鉄鋼 ～需要は弱めながら業績は底堅く推移～

最近の動き



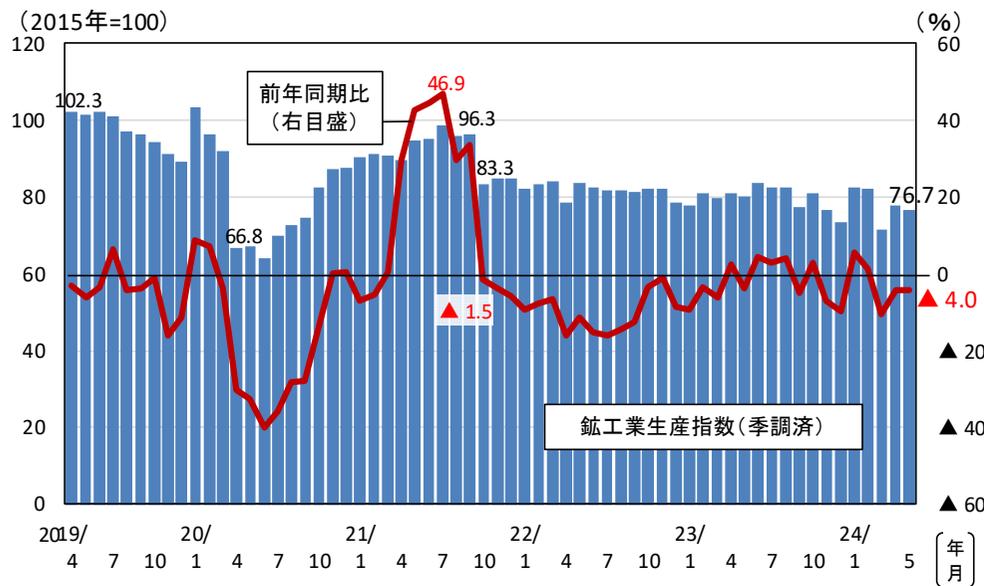
- 需要は、内需が認証不正問題等に伴う自動車向けの低迷から、外需が中国経済の停滞等から、ともに低調に推移した。
- 生産は、需要の低調を受けて減少傾向が続いており、2024年1～5月の広島県の鉄鋼業の鉱工業生産指数は78.1（前年同期比▲2.5%）と前年を下回った。
- 業績は、需要が伸び悩む中で減収となったが、販売価格改善への取り組みが奏功し、増益を確保した。

当面の見通し



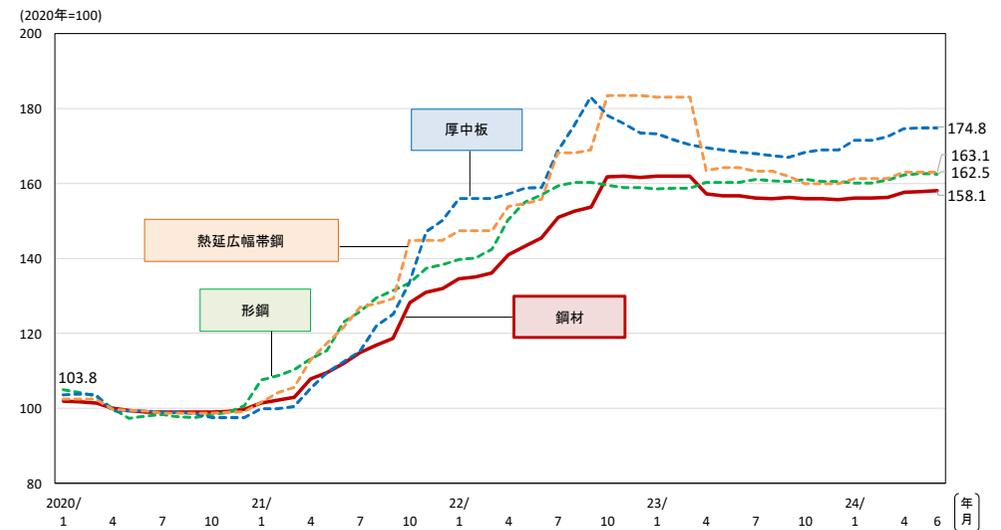
- **需要**は、内需は自動車の認証不正問題の影響一巡から徐々に回復する一方、外需は中国での不動産市況低迷の長期化などから弱めの動きが続く公算が大きく、全体では**横這い圏内での推移**にとどまるとみられる。
- **業績**は、需要は伸び悩むものの、引き続き原材料コスト未反映分や物流費等の価格転嫁に取り組むことで、**底堅く推移する見通し**。

鉄鋼業の鉱工業生産指数（広島県）



(資料) 広島県資料よりひろぎんHD経済産業調査部作成

国内企業物価指数（鉄鋼製品）



(資料) 日本銀行「国内企業物価指数」よりひろぎんHD経済産業調査部作成

8. 大型小売 ～消費者マインドの改善に期待～

最近の動き



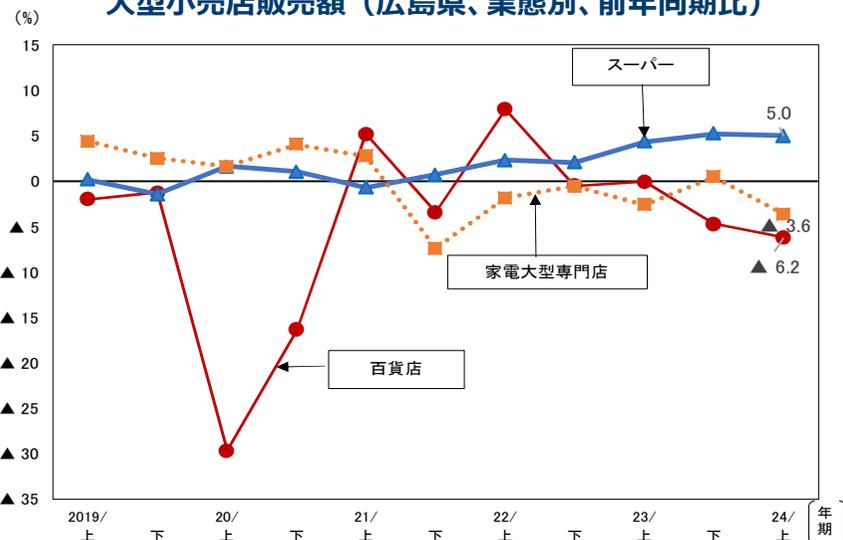
- 広島県内のスーパー販売額(2024年1～5月)は前年同期比+5.0%と、幅広い商品群での単価上昇に生鮮食品の相場高が加わって、前年を上回った。
- 百貨店販売額(同)は前年同期比▲6.2%と、海外ラグジュアリーブランドや美術品・貴金属等は堅調に推移したものの、主力の衣料品の不振や一部店舗閉店の影響から、前年を下回った。
- 家電大型専門店販売額(同)は前年同期比▲3.6%と、パソコンやテレビの不振等から前年を下回った。

当面の見通し



- **スーパー**は、物価上昇に伴う節約志向は続くものの、賃上げ等に伴う消費マインドの改善が期待され、**飲食料品を中心に底堅く推移**するとみられる。
- **百貨店**は、海外ラグジュアリーブランドや美術品・貴金属等の堅調は続くものの、基調としては**伸び悩みが続く**見通し。
- **家電大型専門店**は、ボーナス増や減税効果による消費マインドの改善が期待される中、エアコンをはじめとした季節家電の伸長などが見込まれ、**全体では持ち直す**見通し。

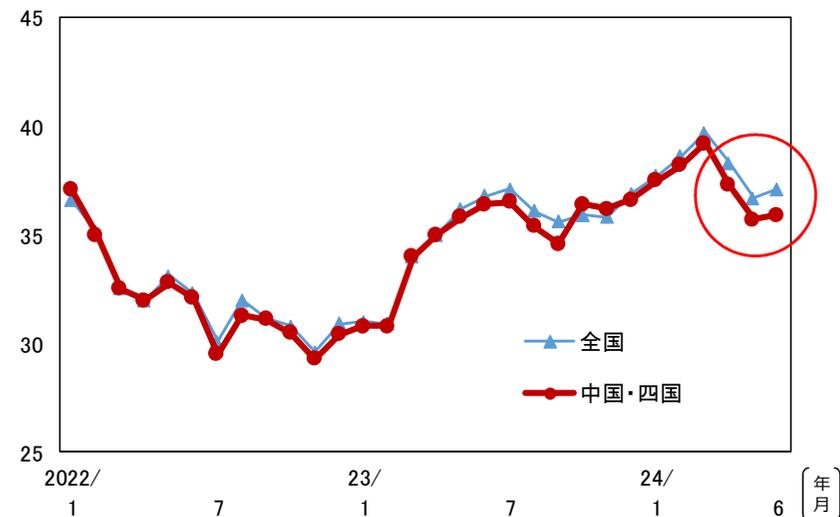
大型小売店販売額（広島県、業態別、前年同期比）



(注1) 全店ベース (注2) 24年上期は1～5月

(資料) 経済産業省「商業動態統計調査」よりひろぎんHD経済産業調査部作成

消費者態度指数（中国・四国地域、全国）



(資料) 内閣府「消費動向調査」よりひろぎんHD経済産業調査部作成

9. 自動車販売 ～認証不正問題の影響が当面は残る可能性

最近の動き



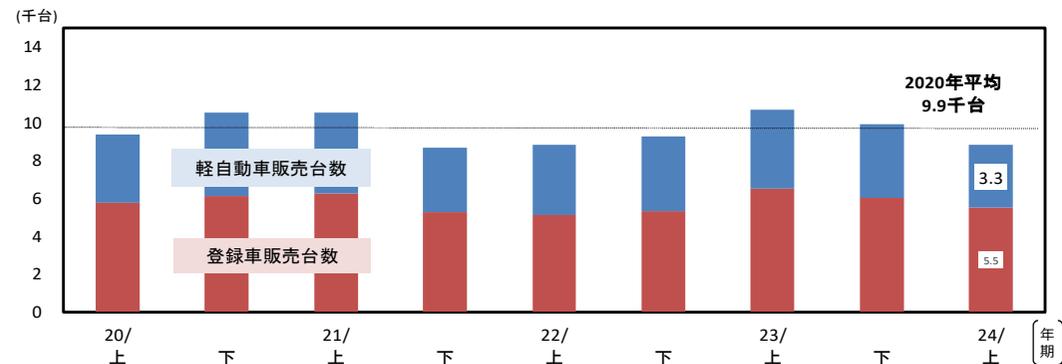
- 県内の新車販売台数(2024年1～6月)は、8.8千台/月(前年同期比▲17.7%)と一部メーカーの認証不正問題により登録車(同▲15.9%)、軽自動車(同▲20.6%)ともに前年を大きく下回った。
- 中古車販売台数(同)は6.1千台/月(同+0.5%)と、新車の価格上昇や認証不正問題を受けた需要シフトもあって、小幅ながら前年を上回った。
- 業績は、新車販売の落ち込みから総じて低調に推移した。

当面の見通し



- **新車販売**は、次第に回復に向かうとみられるものの、6月・7月の新たな認証不正問題の影響が残り、**当面はマイナス基調**。
- **中古車市場**は、需要は根強いものの、新車販売の減少を受けて品不足感が強まっており、**伸び悩む公算**が大きい。
- **業績**は、販売の回復を受け改善に向かうと予想されるが、**回復ペースは緩やかにとどまる**とみられる。

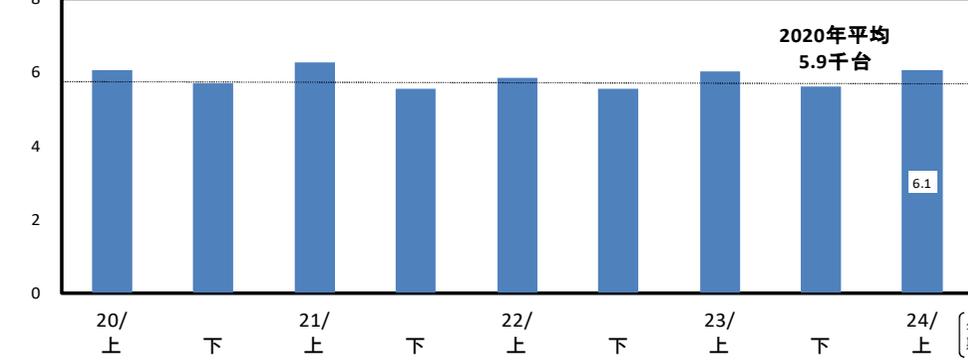
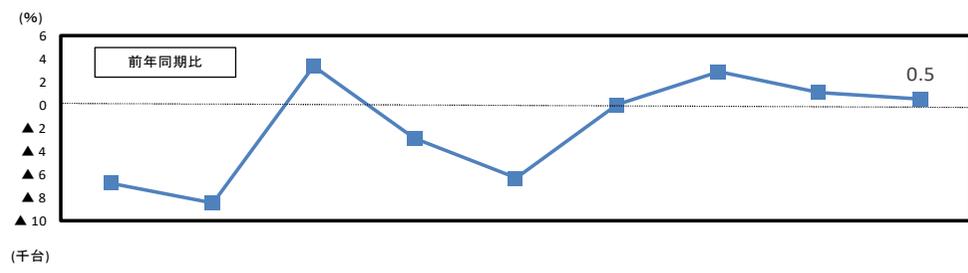
新車販売台数 (月平均、広島県)



(注) 24年上期は1～6月

(資料) 日本自動車販売協会連合会、全国軽自動車協会連合会資料よりひろぎんHD経済産業調査部作成

中古車販売台数 (月平均、広島県)



(注) 24年上期は1～6月

(資料) 日本自動車販売協会連合会資料よりひろぎんHD経済産業調査部作成

10. ホテル ～インバウンドを中心に宿泊の好調が続く～

最近の動き



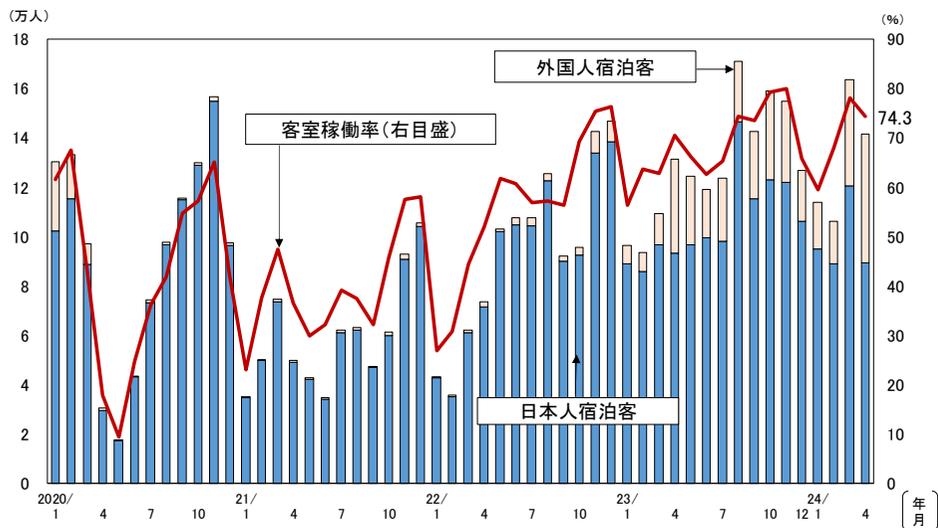
- 宿泊部門は、国内客はビジネス利用を中心に伸び悩んだものの、円安等を背景とした外国人客の増加が続いたことから、稼働率・客室単価は高水準で推移した。
- 宴会・婚礼部門は、宴会は飲食を伴う会議やパーティ等の法人需要の増加により上向いたが、婚礼は成約件数の持ち直しの中でも小規模な披露宴が主流で、伸び悩んだ。
- 料飲部門は、価格改定による客単価の上昇に加えて、宿泊客の利用増加から、堅調に推移した。

当面の見通し



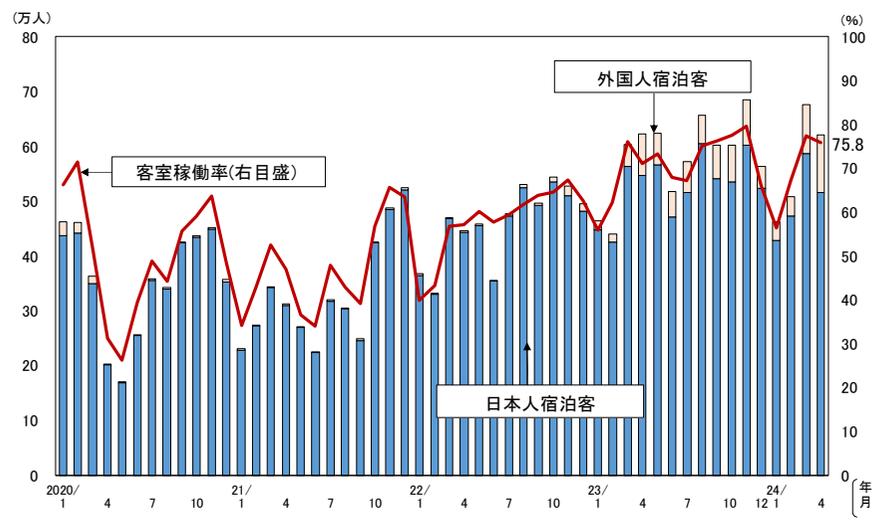
- 宿泊部門は、国内客は客室価格上昇の中で伸び悩みが予想されるものの、インバウンドを中心に**好調に推移**する見込み。
- 宴会・婚礼部門は、法人需要の回復を受けて**宴会の持ち直しが続くが、婚礼は引き続き伸び悩む**見通し。
- 料飲部門は、宿泊客の利用増加に加えて、イベント開催等による地元客の誘客強化等により、**堅調な推移**が見込まれる。
- 業績は、光熱費や清掃費などの経費や人件費の上昇が下押し要因となり、**緩やかな回復**にとどまる見通し。

シティホテルの客室稼働率・延べ宿泊客数(広島県)



(資料)観光庁「宿泊旅行統計調査」よりひろぎんHD経済産業調査部作成

ビジネスホテルの客室稼働率・延べ宿泊客数(広島県)



(資料)観光庁「宿泊旅行統計調査」よりひろぎんHD経済産業調査部作成

1.1. 建築・土木 ～民間工事・公共工事とも底堅く推移～

最近の動き



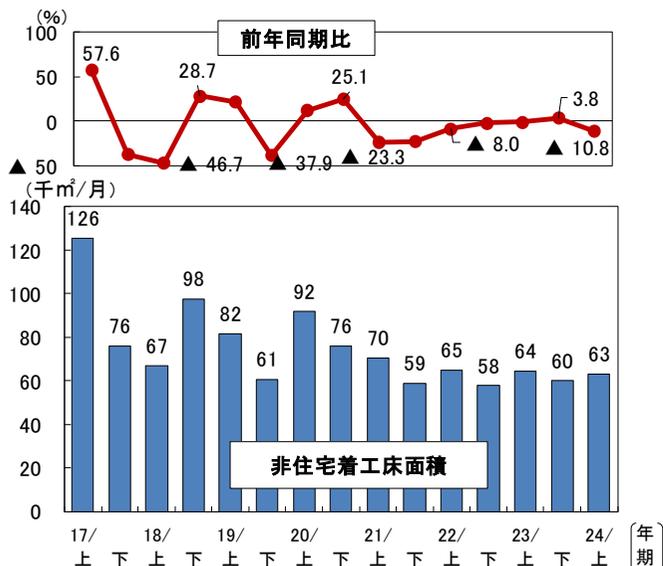
- 広島県の非住宅着工床面積(2024年1～5月)は63千㎡/月(前年同期比▲10.8%)と前年割れとなった。
- 公共工事請負金額(2024年4～6月)は87億円(同▲23.7%)と高水準だった前年度を下回った。
- 業績は、資材費・人件費の高止まりはあるものの、採算重視の受注姿勢の中で工事価格への転嫁も進んでいることから安定した状況が続いており、業況感も良好な水準で推移した。

当面の見通し



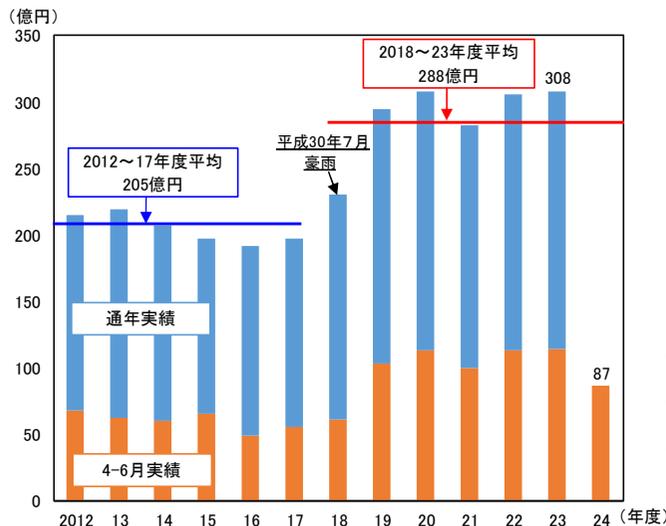
- **民間工事**は、都市部の再開発事業の進展や工場等の設備投資の増加から、**公共工事**も、国土強靱化施策に基づく防災・減災対応工事などを中心に、**底堅く推移**する見通し。
- **業績**は、安定的な受注確保の下で、総じて**堅調に推移**するとみられる。

非住宅着工床面積（広島県・月平均）



(注) 2024年上期は1～5月
 (資料)国土交通省「建築着工統計」より
 ひろぎんHD経済産業調査部作成

公共工事請負金額（広島県）



(資料) 西日本建設業保証(株)資料より
 ひろぎんHD経済産業調査部作成

業況判断D.I.



(資料) 日本銀行広島支店「企業短期経済観測調査結果の概要」
 よりひろぎんHD経済産業調査部作成

1 2. 住宅・マンション ～価格上昇を受け低調に推移～

最近の動き



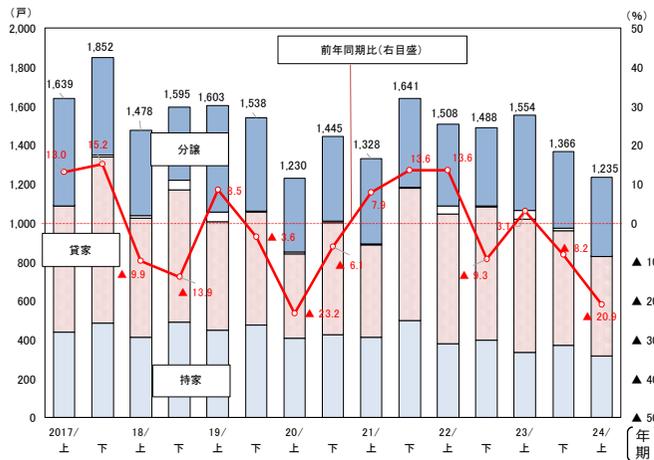
- 新設住宅着工戸数(2024年1～5月)は前年同期比▲20.9%と、建築コストの高騰を受けた住宅価格の上昇を背景に前年を下回った。参考までに、2024年の中国地方のマンション価格はコロナ禍前の1.3倍に上昇している。
- 種類別には、「貸家」(同▲25.4%)、「分譲」(同▲18.2%)が大幅に落ち込んだほか、「持ち家」(同▲5.3%)も前年割れとなった。
- 業績は、販売の落ち込みに加え、仕入地価や資材費、労務費等の上昇により、前年を下回った。

当面の見通し



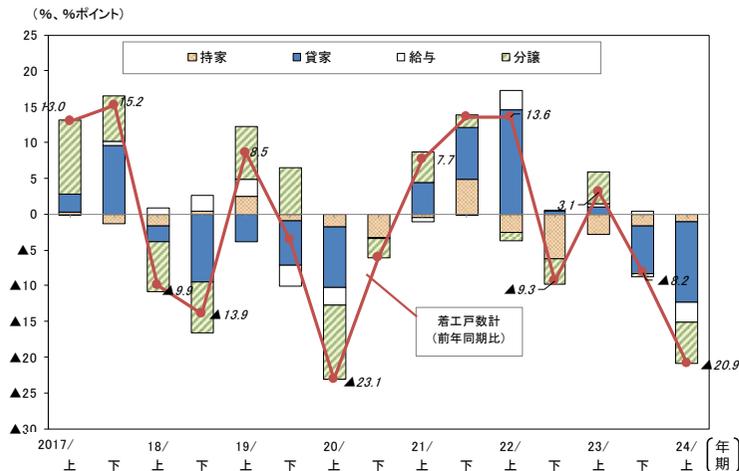
- 需要は、住宅価格上昇の中で買い控えの動きが続くとみられ、**低調に推移**する可能性が高い。
- 業績は、需要の低迷に加えて、資材費・労務費等のコスト増加が続くとみられ、**厳しい状況が続く見通し**。

新設住宅着工戸数の推移 (広島県・月平均)



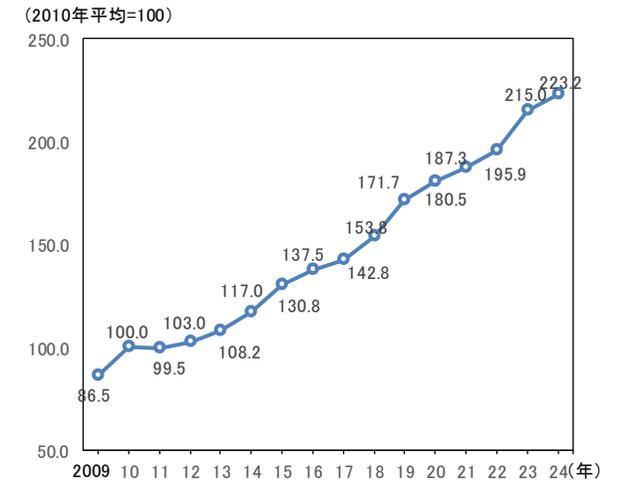
(注) 2024年上期は1～5月
 (資料) 国土交通省「住宅着工統計」より
 ひろぎんHD経済産業調査部作成

新設住宅着工戸数の増減の内訳 (広島県)



(注) 2024年上期は1～5月、種類別の内訳は寄与度
 (資料) 国土交通省「住宅着工統計」より
 ひろぎんHD経済産業調査部作成

中国地方のマンションの価格指数



(注) 2024年は1～3月の平均、サンプル数が少ないため参考値
 (資料) 国土交通省「不動産価格指数」より
 ひろぎんHD経済産業調査部作成

1 3 . 陸運 ～業績改善には時間を要する～

最近の動き



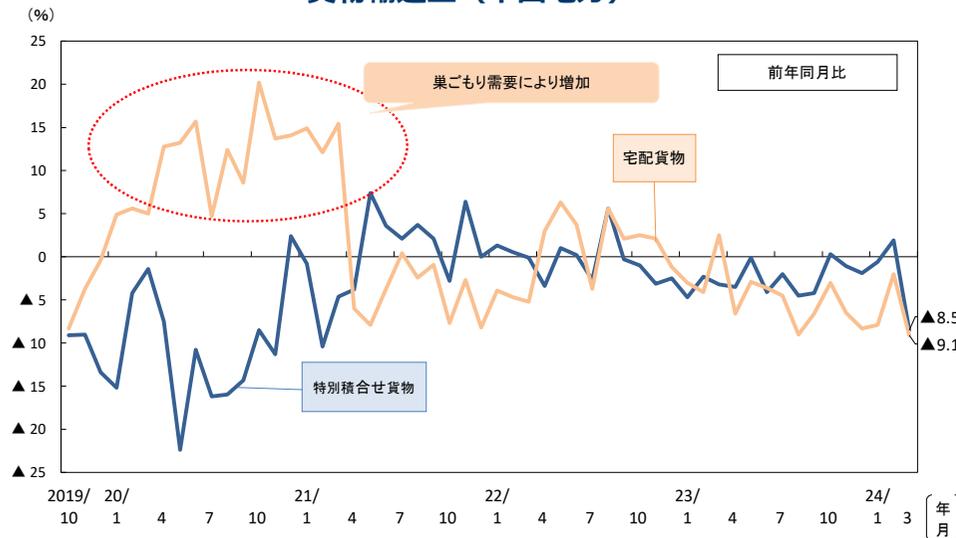
- 荷動きは、宅配貨物の前年割れが続いたほか、自動車生産の減少を反映して法人関連も弱含んだことから、総じて低調に推移した。
- 業績は、低調な荷動きの一方で、運賃引き上げ交渉が進展する企業が増えつつあり、緩やかながら改善に向かった。
- 因みに、当部アンケート調査(2024年4月実施)によれば、県内の陸運企業の経営状況DIは▲3.8%ポイント(2023年10月調査比+32.2ポイント)と大きく改善した。

当面の見通し



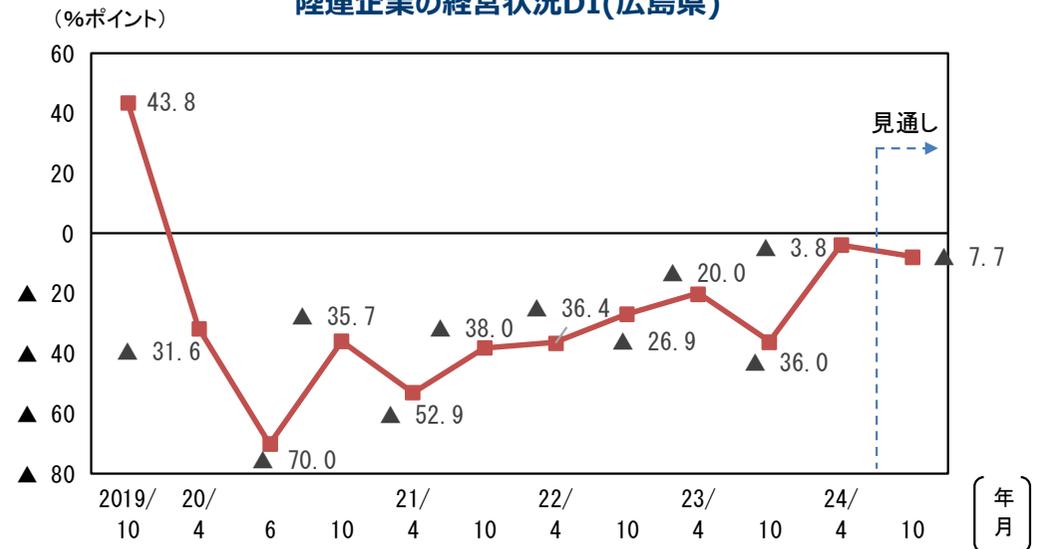
- 荷動きは、自動車生産が回復に向かう一方で、家計の節約志向を受けて宅配貨物や小売関連では弱めの動きが続くとみられ、全体としては**横這い圏内での推移**となる見通し。
- 業績は、運賃の引き上げ機運の高まりを受け改善が進むとみられるが、荷動きが伸び悩む中でコスト増加に見合った価格転嫁は難しく、**改善には時間を要する**見通し。

貨物輸送量 (中国地方)



(注) 特別積合せ貨物は主要事業者2社計、宅配便は主要事業者3社計
 (資料) 中国運輸局資料よりひろぎんHD経済産業調査部作成

陸運企業の経営状況DI(広島県)



(注) 経営状況DI=「良い」企業の回答割合-「悪い」企業の回答割合
 (資料) ひろぎん経済研究所、ひろぎんHD経済産業調査部「経営者アンケート」

14. 海運 ～輸送距離の伸長等から高水準続く～

最近の動き



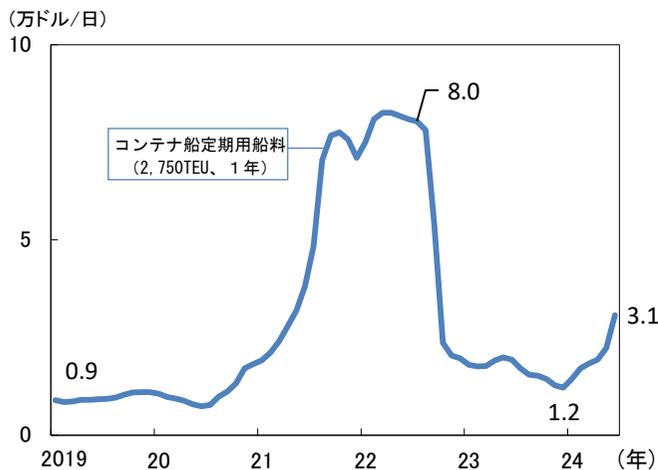
- 用船料は、荷動きが全体として底堅く推移する中で、紅海情勢の悪化や渾水によるパナマ運河の通航制限等による輸送距離の伸長を主因に、総じて上昇した。
- コンテナ船は、新造船の大量竣工により2023年後半には弱含んだものの、2024年に入って大幅に上昇した。
- バラ積み船・タンカーは、ロシア・ウクライナ情勢の長期化の中で、上昇基調が続いた。

当面の見通し



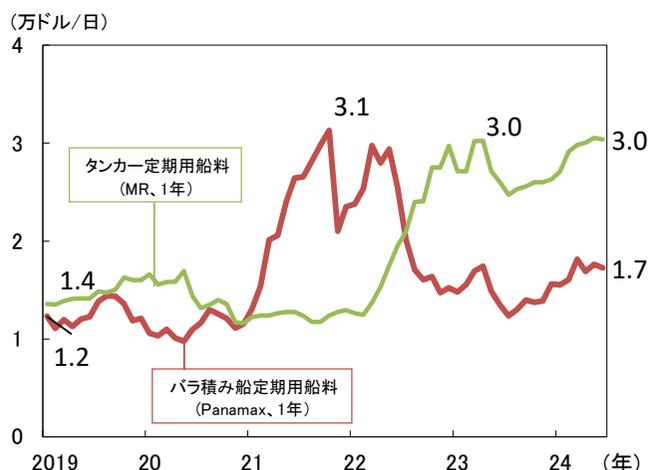
- **用船料**は、米国経済の減速や中国景気の低迷などを背景に荷動きは伸び悩むとみられる一方で、紅海情勢の悪化やパナマ運河の通航制限の長期化が想定されることに加え、船腹不足が運航スケジュールの乱れや港湾混雑など二次的な影響を引き起こしていることもあり、総じて**高水準が続く見通し**。

コンテナ船の定期用船料



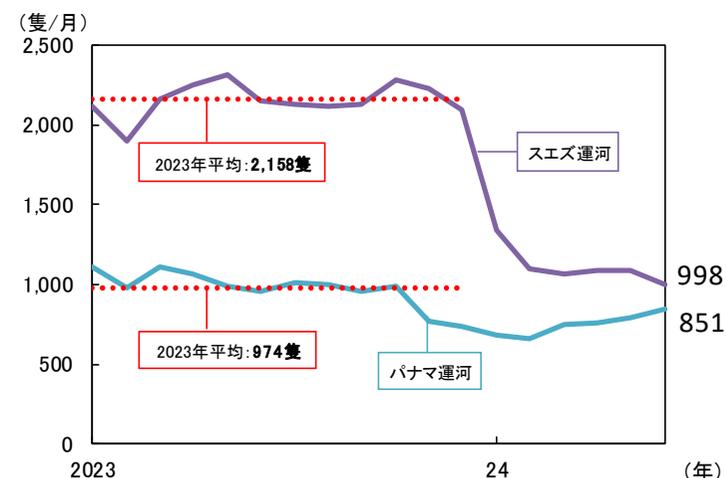
(注) 各年月次ベース、直近は2024年6月
 (資料) Clarksons ResearchよりひろぎんHD経済産業調査部作成

バラ積み船・タンカーの定期用船料



(注) 各年月次ベース、直近は2024年6月
 (資料) Clarksons ResearchよりひろぎんHD経済産業調査部作成

2大運河の通航量



(注) 各年月次ベース、直近は2024年6月
 (資料) Clarksons ResearchよりひろぎんHD経済産業調査部作成